

# 食卓が 勉強机



吉村 幸代

「他人が持っている」と羨ましいが、自分が持つと大変なもの」は、「一に別荘、二に妾、三に庭園」だそうなので、「他人を乗せると楽しいが、自分が乗ると大変なもの」は何だろう。「神輿、選挙、ジェットコースター」あたりかしらん。

亥年は選挙の年、第十六回

統一地方選が十三都道府県の知事選告示で幕をあげた。そもそも投票率アップや経費削減を狙いに始まった統一地方選だが、今回は「平成の大会併」の影響などで統一率が三割を切るかと。自治体の財政危機や政務調査費問題が取り沙汰される渦中であって、投票率に選挙民の良識を信じた

「信州・春の陣」の開戦も今週末にと迫り来ている。だが、県議選も市議選も争点が今ひとつ意識されないのか、私の周囲は意外に静かだ。郊外でぼつんと暮らしていると、都知事選や宮崎県政の方がむしろホットで身近でさえある。

そんなある日、テレビから

## 投票ノススメ

流れ来る怒声に思わず振り向いた。「もう、市議はいらねえべや」。北海道夕張市で、何かの説明会が開かれた模様だ。「財政破綻に気がかねえ市議会なら、議員に給料かねえうより、保育や老人医療に使った方がいい」。激怒した住民の発言は、議会のチェック機能の不全を指摘している。

動くなどについて、市議一人一

人実名の通信簿を作成して公開中という。文面は「自治体の政治を変えるのは議員ではなく、選挙民であることを痛感しています。新しい市民参加の形でもあり、全国にこの風が広がることを期待します」と結ばれていた。以後、この記事をきっかけに続々と同感の声が上が

視する力量が求められていよ

り、投稿欄は紙上討論会の様相を呈するに至った。

「究極的には、政の分配だ」と言い切っている。予算書の難題ではあるが、それたないような議員でない。また、条例の制するからには、法的恩恵である。その上で、自の問題や、政治家の自の問題にも、自分の課題にも、でもらわねばなるまい。議会とは何なのか、出向くたび、私は疑って帰途につく。一市で、せめて身近な市民心を持って暮らして、と考えている。

投票に行こう。私に関心を持つことで変わ、そう信じよう。

(主婦 川)